

川村次郎・竹内孝仁 編

義肢装具学

初山 泰弘（国立身体障害者センター）

義肢・装具の分野で臨床経験の豊富な川村・竹内両氏の編による「義肢装具学」が出版された。

この書は、義肢・装具に関連ある専門職の養成校の教科書用に編集されたもので、執筆者は医師とセラピストが中心に構成されている。

本の構成は義肢と装具に分かれ、義肢編では総論、切断、歩行の項に続き、各義足の種類別に構造・部品、適合とアライメント、義足歩行の特徴などについて、図を用い簡潔に要領よくまとめられている。続く切断者のリハビリテーションの項では術前術後の評価、装着前訓練、義足の装着訓練などを含め40ページにわたりかなり詳細に図解してある。

後半の装具編では総論に続き下肢装具、靴型装具、体幹装具、上肢装具などが、これも図を豊富に使用し簡明に解説されている。ここでは先天性股関節脱臼に対する装具についても述べられてある。

元来、義肢・装具を身体に装着するには、局所の機能障害の評価に始まり、処方、製作、適合判定、修正、義肢装着訓練などについての広範な知識が重要なため、「義肢・装具」について全般を網羅するには、生体の機能解剖、義肢・装具の材料、採型・製作、適合・装着訓練に至る幅広い事項が盛り込まなければならない。このため、この種の書物は、分冊にするか、特定の分野に焦点を絞って企画されるものが多い。

この「義肢装具学」は養成校の学生を対象としているため、切断術や採型・製作部分を省き、学生に

も理解し易いような配慮が随所に取り入れられている。例えば、鮮明な図・表・写真を多用し、文章は可能なかぎり簡潔に箇条書きにし、とくに強調しておきたい点や用語の解説、将来の義肢・装具についての著者等の意見や希望などは「一口メモ」として加え、とかく単調で無味乾燥に陥りやすい教科書の欠点を補う工夫がみられ、これがこの書の特色ともなっている。また各章の最後には関連問題も付記され、ページ毎に余白の広いのもメモを記入するのに便利である。

編者の企画どおり、この書は理学療法士、作業療法士など医療関連職種の養成校の義肢・装具に関する教科書として極めて有用な書と思われるが、技術編が除外されている点、義肢・装具士には物足りないかもしれない。一般医家、看護婦など義肢・装具に関係を持つ職種の方々も手元に置かれ、折りに触れて参考書として利用されるのもよいであろう。

あえて希望を述べれば、「切断者のリハビリテーション」の項を歩行の後に持ってきて良かったのではないかと思うことと、義手のチェックの具体的な図解があればなお便利であったろう。

付録の交付基準、JISの規格なども参考となる。

実際に、義肢・装具の適合判定・訓練に従事されている方々が書かれた新しい書の発刊を喜ぶと共に、幾つかの工夫を取り入れた編者等のご苦勞を多としたい。

(A B判 頁384 8,446円(税込) 1992年 医学書院刊)